

東青地域ナマコ種苗生産体制構築事業（R3~R5）

R3 3,348千円
R4 2,862千円
R5 2,520千円

現状分析と課題

現状分析

- ◆ ナマコは、陸奥湾でホタテガイに次ぐ重要水産物
- ◆ ナマコの国内取引価格は、中国情勢に影響されることなく、高値で安定
- ◆ 近年、ナマコの生産量減少が顕著
- ◆ 県は漁場を造成・整備し、生産者は資源回復策を実施
- ◆ 生産者は「ナマコ種苗生産マニュアル」等により種苗の生産に取り組んできたが、放流数が不安定

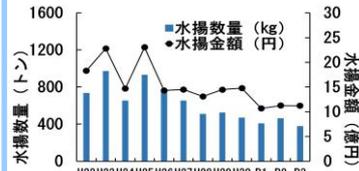


図 ナマコの水揚げ数量と金額

課題

- ◆ 現場では、放流前の種苗を安定的に生産・確保することが困難
- ◆ 放流数の安定のため、生産現場環境に応じた「ナマコ種苗の生産体制づくり」が急務

事業の内容（アウトプット）

ナマコ種苗の生産体制を確立し、生産現場への普及を円滑に進め、種苗放流数の増大を図る。また、各生産現場に合わせた種苗生産の手引きを作成し、生産技術を普及する。
〈地方創生推進交付金活用事業〉

取組1 種苗の生産体制の確立

2,425千円

- (1) 実施海域
海洋環境の相違する津軽海峡と陸奥湾に区分し、それぞれの漁協へ種苗生産の検証を委託（津軽海峡：今別、三厩、陸奥湾：平内、野辺地）
- (2) 実施内容
漁協の施設内に機器を配置し種苗生産の課題（水温・水質など）を検証



- 重点枠事業による取組み
- 生産者による取組み

取組2 種苗生産技術の習得と普及

95千円

- (1) 種苗生産技術の習得研修
- (2) 生産者間の交流会開催（資源保全意識の向上）
- (3) 種苗生産関係者による生産技術課題の整理と検証
- (4) 生産現場に合わせたナマコ種苗生産の手引きの作成と普及（R5）



事業の目指す姿

事業のアウトカム

ホタテガイとナマコによる陸奥湾の漁業振興

- ◆ 生産現場に合わせたナマコ種苗生産の確立
- ◆ 種苗生産技術を習得した漁業者の育成
- ◆ 成果を含め漁協に対して普及を継続

最終アウトカム

- ◆ 漁協を主体とした体制への移行
- ◆ ナマコの資源回復と漁場（養殖場下）活用による増産増収

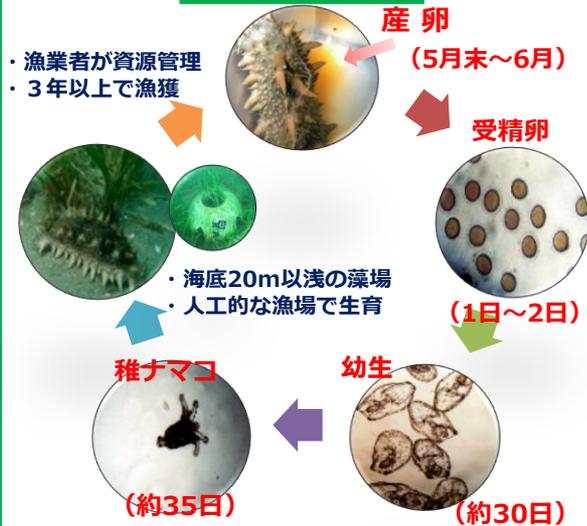
【関連KPI等】

- ◆ 管内ナマコ種苗生産箇所増加 R8 R3年比150%増（約+3ヵ所）
- ◆ 管内ナマコの水揚げ金額増加 R8 R3年比150%増（約+5億円）

東青地域ナマコ種苗生産体制構築事業費 (新規)

現
状

生活史



水揚・出荷

漁獲サイズ200g以上

底見

ホタテガイ漁業者 979人
ナマコ漁業者 788人

桁曳

| 年次 | 水揚げ数量 (トン) | 水揚げ金額 (億円) |
|-----|------------|------------|
| H22 | 971 | 22.8 |
| H23 | 971 | 22.8 |
| H24 | 971 | 22.8 |
| H25 | 971 | 22.8 |
| H26 | 971 | 22.8 |
| H27 | 971 | 22.8 |
| H28 | 971 | 22.8 |
| H29 | 971 | 22.8 |
| H30 | 971 | 22.8 |
| R1 | 402 | 10.7 |

ナマコ水揚げは減少

409.2トン 10.7億円

加工・輸出

乾製品

輸入代理人

兵庫県
北海道
大阪府

漁業者、漁協、
産地加工業者

塩蔵品

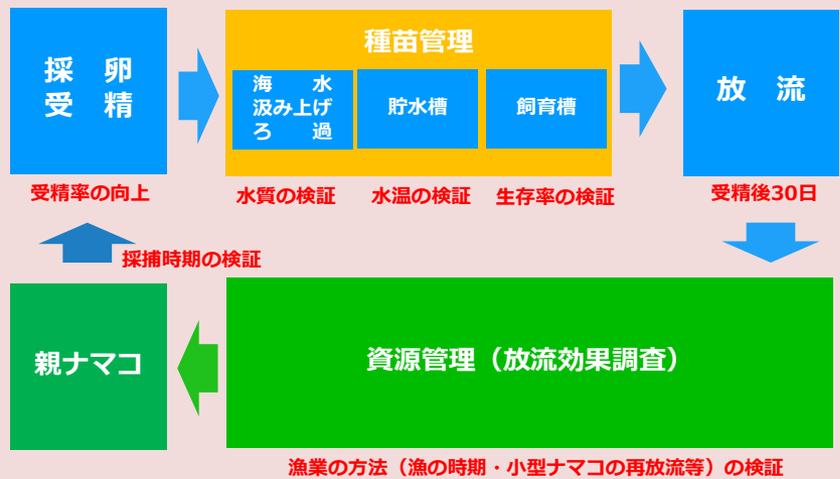
福岡県
山口県

産地加工業者

全国の輸出 1,126トン 229億円

中国 (主に香港)

生産体制の確立・生産技術の習得と普及



事業効果

種苗生産技術の習得研修

資源保全意識の向上
生産技術課題の整理と検証

ホタテガイとナマコによる 陸奥湾の漁業振興

